

伝笑鳩例会<幸 裕 (=交友) 録>(頓珍漢な会話)

1. 「ダジャレ大好きな気象予報士 南利幸さん」はまだ若い！
 - (裕) 土日の早朝 <NHK-TV おはよう日本>で天気予報を担当してはるオジサンが、南利幸さん。もうずいぶん長いし、頭ハゲテはるからお歳かと思たら何と 1965 年生まれの 58 歳。最近減ったけどだじゃれも大好きやそうや。
 - (幸) 広島大大学院卒で防災士、技術士でもある。モットーは「減災(=災害を減らす)につながる天気予報」やねんて。
 - (裕) 1994 年に気象予報士試験に合格し、翌 95 年に NHK の天気予報に出演し始めた。1990 年に日本気象協会に入社。2006 年同協会退職。
 - (幸) 2012 年に(株)南気象予報士事務所を設立、現在に至る。
 - (裕) この秋暑い日が続き、暑さで上着なんか着てられへん時に南はんが言い合った。
「萩の季節になりましたが暑くて上着をはぎとられそうです。」
2. 『最後の無頼派・直木賞作家 伊集院静さん 73 歳で逝く！』
 - (幸) 「背が高く美丈夫、明るく愉快でギャンブルを好む無頼の鬍りも持っており、男性にも女性にもモテて、大変なく人たらし>やった。女優さんと次々と結婚して芸能界の仕事も多い。作詞家(近藤真彦さんの<ギンギラギンにさりげなく>等)、演出家として一流やった。」言うのは同じ作家の林真理子はん。
 - (裕) 日経小説大賞で審査員同士で、出身地(山口県防府市)も同じ芥川賞作家高木のぶ子はんは「書く立場でも読む立場でも心に響くものを良しとし、自分を信じ抜き、揺るぎない構えを持つ人やった。最後までベストセラーを出し続け、大きな存在のままぱっと姿を消してしまうのも伊集院さんらしい。」言うてはる。
 - (幸) 今の奥さんで俳優の篠ひろ子はんの弁。「自由気ままに生きた、最後まで自分の生き方を貫き通した人生でした。」
 - (裕) 2 人目の奥さんが若くして白血病で亡くなった伝説の女優夏目雅子さんや。まさに美男・美女の組合せやったなあ。「時代屋の女房」「瀬戸内少年野球団」なんかに出てはったけどほんま美人でワテ、ファンやってんけどな。
 - (幸) 伊集院はんが今からしてみれば<晩年>に日経新聞に連載した「琥珀の夢」(サントリー創業者鳥居信治郎の生涯を描く)と「ミチクサ先生」(夏目漱石の生涯を描く)も良かった。在日韓国人二世としての経験と、それでも日本しか祖国はないという葛藤の中で、伊集院はんが取組んだのが「日本人とは」という主題やってんて。
 - (裕) <晩年>は奥さん・篠さんの故郷仙台へ「伊集」(→移住)して「院」(→隠)然たる勢力を「静」かに保ってはったらしいで
以 上

(大鳥羽 裕太郎)